

# 地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 1/3

## 第1問

5 10 15 20 25 30

18世紀半ばにアラビア半島で復古主義を説くワッハーブ派がサウード家と結び、ワッハーブ王国を建国する一方、ロシアにクリミア半島を奪われた。ナポレオンのエジプト遠征を機にエジプトでムハンマド＝アリーが自立し、民族主義の影響を受けたギリシアは、英仏露の支持でロンドン会議で独立した。オスマン帝国はギュルハネ勅令でタンジマート改革を開始し、法の下での平等を保障するオスマン主義でバルカン諸民族の分離を阻止しようとした。クリミア戦争以降の外債累積で財政が破綻し、さらにギリシア正教徒の保護とパン＝スラヴ主義を唱えるロシアの干渉でバルカンの民族運動が活発化すると、オスマン帝国はミドハト憲法を制定して立憲君主政を目指した。アブデュルハミト2世は、露土戦争が勃発すると憲法を停止して専制体制を復活し、ベルリン会議でセルビアなどバルカン半島のキリスト教地域が独立すると、アフガーニーが説いたパン＝イスラーム主義を利用して内外のムスリムを統合しようとした。日露戦争の影響で青年トルコ革命が起こり立憲政は復活したが、ブルガリアは独立し、伊土戦争やバルカン戦争で領土が縮小すると、政権内でパン＝トルコ主義が強まった。アラブ人などの反発が強まるなか、第一次世界大戦でイギリスはフサイン＝マクマホン協定でアラブ民族主義を、バルフォア宣言でユダヤ人のシオニズムを利用した。敗戦により締結されたセーヴル条約では英仏が非トルコ人地域を委任統治領として分割し、パレスチナ問題やシリア内戦など現代の諸問題を準備した。その後、オスマン帝国はトルコ革命で滅亡した。

地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 2/3

第2問

5 10 15 20 25 30

(1)

反英運動の中心であったベンガル州を、イスラーム教徒中心の東ベンガルと、ヒन्दゥー教徒中心の西ベンガルに分割することにより両教徒を反目させ、反英的傾向を強める民族運動の分断を狙った。

5 (2)

(a) 赤道以北のミクロネシアは 19 世紀末にドイツ領となるが、第一次世界大戦中に日本に占領され、戦後に日本の委任統治領となった。  
(b) 大英帝国の自治領であったが、帝国会議で本国と対等かつ平等な英連邦の一員となり、ウェストミンスター憲章で法制化された。

10 (3)

(a) 中国東北部から楽浪郡を滅ぼして朝鮮半島へ進出した高句麗と、半島南部の新羅・百済が争い、唐と結んだ新羅が両国を滅ぼした。  
(b) 大祚榮が渤海の王として唐から冊封を受け、唐から仏教文化や官僚制を導入し、長安の都城制を模倣して上京竜泉府を造営した。

地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 3/3

第3問

5 10 15 20 25 30

- |    |  |
|----|--|
|    | (1) コスモポリタニズム                                      |
|    | (2) 『エリュトウラー海案内記』                                  |
|    | (3) 班超   |
|    | (4) 義浄   |
| 5  | (5) ドニエプル川   |
|    | (6) スワヒリ語  |
|    | (7) (a) プラノ＝カルピニ (b) ルブルック                         |
|    | (8) ジャガイモ, トウモロコシ                                  |
|    | (9) 綿布   |
| 10 | (10) マサチューセッツ, ニューハンプシャー, ロードアイランド,<br>コネティカットから2つ |